

# 日本図の変遷 ～赤水から伊能へ～

小野寺淳 平井松午

... 19

伊能忠敬没後、高橋景保の下  
役や忠敬の内弟子たちが中心と  
なって最終版伊能図となる「大  
日本沿海輿地全図」を完  
成させ、一八二一（文政  
四）年七月十日に景保と  
忠敬の孫忠誨によって幕  
府に上呈された。忠敬の  
死が公表されたのは、そ  
の年の九月である。「大  
日本沿海輿地全図」は、  
大図二百十四枚、中図八  
枚、小図三枚の三種類か  
らなる。大図は、二百十  
四枚の地図を東西・南北  
に接合する切図形式をと  
り、中図・小図も同様で  
ある。接合箇所には、合  
印となる色鮮やかな半円  
形のコンパスローズ（方  
位記号）が複数描かれ、接合す  
ると円形を呈した。

この幕府上呈本は七三（明治  
六）年の皇城火災で焼失し、そ  
のため明治政府が買い上げた伊  
能家副本も一九二二（大正十  
二）年の関東大震災で失われ  
た。唯一遺るのは、地図三組と

一緒に提出された測量記録「輿  
地実測録」十四巻（国立公文書  
館蔵）だけである。「輿地実測  
録」（一八七〇年に「大日本沿  
海実測録」として刊行）には、  
冒頭に高橋景保・伊能忠敬の序  
文、測量法や作図法に関する  
「凡例」や地図記号、目次が掲  
載され、以下、全国約七千八百  
地点についての距離や緯度の測  
定値が続く。景保の序文では、  
長久保赤水作図の「改正日本輿  
地路程全図」に言及している。

このように、幕府に上呈され  
た伊能図原本は失われたもの  
の、忠敬らは測量後には作図作  
業に従事していて、伊能忠敬記  
念館（千葉県香取市佐原）には  
下図三百九十九点、地図（稿  
本）百二十三点が所蔵されてい  
る。また、日本東半部「沿海地  
図」や「大日本沿海輿地全図」  
の完成時には、老中や若年寄と  
いった幕府重臣たちや天文方の  
高橋景保らにも、上呈図の仕立  
てに近い針穴本の中図・小図が  
謹呈された。他にも、蜂須賀家  
や松浦家、毛利家などの大名の  
求めに応じて秀麗な地図が献上  
されている。さらに幕末には、  
海防用の実用地図や海図として  
海岸線が詳細な伊能図が利用さ  
れたほか、明治政府が近代地図  
整備のために伊能図を模写して  
いる。

（ひらい・しょうこ）徳島大  
名誉教授

## 「大日本沿海輿地全図」の完成



「実測輿地図」伊能小図3舗とコン  
パスローズ=ゼンリンミュージアム  
蔵、蝦夷地（151.9×160.5㌘）、東  
日本（256.6㌘×161.0㌘）、西日本  
（203.7㌘×160.0㌘）